

強者の戦略

第5回 南

～学祭 (NF)～

こんにちは！地理の南です。久しぶりに京大話をしようと思います。前は図書館の話をしましたね。今回は、学祭について話して行こうと思います。

京大では11月の終わりの時期にNF(November Festival、11月祭)と呼ばれる学祭が開催されます。東大の学祭が5月祭なので、ちょっと対抗している感がありますね。ちなみに、この11月の終わりの時期というのは、かなり遅い時期にあたります。近畿圏の学祭は、9月終わりぐらいからスタートして11月上旬までの金・土・日の間にいろんな大学で開催されます。その学祭の流れの最後に位置しているのが京大というわけです。かなり寒くなっているので困ります。

京大の学祭を一度でも訪れたことがある人は分かると思いますが、著名な芸能人はほとんど来たためしがありません。今をときめく歌手や俳優などに会いたいのであれば、他の学祭に行くことをお勧めします。私が1年生のときは、誰が来たのかも覚えていないですが、北野誠さんが来ていたような気がします。あと、大学という場所は警察の権力が及びにくくなっている場所でもあるので、世間的には「ちょっとそれ大丈夫？」ってなことも起こりえます。普通の映画館では過激すぎて放映できないようなマニアックなフランス映画を上映していたり、いろんな意味で女性になったニューハーフの人が…これ以上は書けないのですが、なかなか面白いことになります。

この学祭に、京大生として参加しようとする、普通は2通りの参加の仕方があります。クラスで模擬店を申請するやり方と、サークルや部活で模擬店を申請するやり方があります。だから、学祭に訪れてパンフレットなんかをもらおうと、各模擬店の部分に、文学部1組と書かれていたり、野球部と書かれていたりするわけです。私が1年生のときの、友人が入っていた舞踏研究会では、研究会のメンバーが壁際に直立不動で立ち、3m離れたところから「おから」を丸めて、投げて狙い打ちさせるようなこと

をやっていました。私ももちろん参加して、友人にバシバシ命中させてやろうとしましたが、ほとんど当たりませんでした。自分の制球力のなさに初めて気付いた瞬間です(泣)。この「おから」投げ模擬店はグラウンド付近で行われていたのですが、普段野球をメインでやっているグラウンドは、学祭のときにはメインステージへとその姿を変えます。大きなステージでいくつものバンドが演奏し、近くの模擬店のフランクフルトやたこ焼きが馬鹿売れするという仕組みになっています。また、私は参加したことがないのですが、学祭が始める前日には前夜祭なるものがこのグラウンドで開かれていて、大量のビールが振舞われていた記憶があります。友人の中には、学祭自体よりこの前夜祭を楽しみにしている人もいましたね。飲みながら走り回るらしいですよ(笑)。さらに聞いたところによると、「教員酒場」なるものが設置され、教授陣が持ち寄ったお酒を、学生がタダで飲めるという素敵なお催しもあったそうです。その酒場で酔いつぶれ、次の日の模擬店売り子シフトに遅れる人がいたり、友人宅に夜中に泥酔して転がり込む輩がいたり…。

ミス京大とかミスター京大とかは開かれないのですか、と疑問に思った人いますか。このイベントを開くなら、きっとメインステージだと思いますけど、京大ではなかなか開かれませんか。数年前に、京大新聞のサークル活動をしていた人に聞いたのですが、もうすぐミス京大が開催されるってところまで話が進んだ時に、「女性を商品のように扱うミス京大は、女性の地位を下げしめるものではないか？」という批判をどこかしらかの筋から受けたらしく、実現に至らなかったそうです。

サークルや部活の模擬店の話が続きましたが、私はサークルなどほとんど入っていなかったの、クラスでやる模擬店にしか参加しませんでした。文学部1組(L1)では、いつ決まったのかも分からないうちに「たこ焼き」に決定していました。うそのようなほんとの話ですが、近畿圏から来ていない人は、

強者の戦略

家庭用の「たこ焼き」機なるものの存在を知らず、自分の手で「たこ焼き」を焼いたことのない人が多くいるのです。私の家には当然使い古した「たこ焼き」機があり、幼い頃から細いピックでクルクル回転させながら「たこ焼き」を焼いてきました。あるときはオリバーソースで食べ、またあるときは、うどんのだし汁につけて簡易的ではあるが明石焼き風にして食べていました。さらに説明を加えますと、私は「たこ」が嫌いなので、たこではなく「ちくわ」を中に入れて焼いていました。私の理論ですが、「たこ焼き」というものは実は矛盾をはらんだ存在なのです。「たこ焼き」の本当のおいしさは「たこ」を抜いたときに発現します。小麦粉を焼いた生地ソースをつけて食べる、これが最もおいしいのです。たこの味はマイナスにしか働いていません。みんなこの真実に気付いてください！

ちょっと話はそれましたが、学祭前には、誰かしらかの「たこ焼き」機が誰かしらかの下宿に持ち込まれ、L1のメンバーで「たこ焼き」を焼く練習会みたいなものが開かれました。まあ、誰がやっても同じ形、同じ味になるのですが、適当に「これ、たこ焼き屋さんの焼き方やで〜」、「へ〜まじですごいやん」とか言い合いながら、みんなでわいわいやって楽しかったですね。



そして当日です。自分で言うのも何ですけど、ごく普通の味の「たこ焼き」のくせに、まー売れること売れること！学祭の雰囲気があれば、何でも売れるんじゃないかと思います。一応、わがクラスの模

擬店の写真が奇跡的に残っていたので、掲載しておきます。96年という年代が素敵ですよ。

結局、経費を差し引いても10万円ぐらいの利益が出たような記憶があります。このお金を引っさげて、関西ウォーカーで見た店に予約し、L1のメンバーでしゃぶしゃぶを食べながら打ち上げをしました。クラスみんなが一体となって同じことに取り組んで成果が出て、そしてみんなでぱーっと盛り上がったので、1年生の中で一番楽しかった思い出です。みなさんも合格して、NFに積極的に参加してください！高校生の間に見に行くのもいいと思いますよ。私も高校3年生のときに行っていますので。

そして最後に。京大の学祭(NF)はスローガンが面白いです！私が積極的に参加した1996年は「知と痴の融合」でした。一般的な人にとっては京大のスローガンの面白さは分からないかもしれませんが、京大志望者なら、いずれはこのようなシャワーを浴びるようになるわけなので、避けずに確認してみてください。ホームページで検索したら見つかったので、一杯掲載しておきます。では、またいつかお会いしましょう！

《京大 学祭 スローガン一覧》

なぜか1983年から短くなっています！

1959年（第1回）戦後派意識の解明

1960年（第2回）独占資本主義社会におけるマゾヒズムとサディズムの意識

1961年（第3回）仮眠の季節における僕たちのあいさつ

1962年（第4回）故郷喪失の時代と僕ら

1963年（第5回）囁む時には言葉を考えるな

1964年（第6回）ああ自然死—このナチュラルなもの

1965年（第7回）新しい歴史は僕らの手で せまりくる嵐のなか わだつみの声をのりこえて 真実を求め ともに考え前進しよう 真の学問文化を追求するなかで

1966年（第8回）青年よ その眸で真実を見よ

1967年（第9回）のぼさう大学に新しい芽を 築け展がれ 人類の知恵 鳴らせ高らかに創造のつのぶえ おしよせる 戦火の嵐ふきとばし 進め固めて反戦自由の道

強者の戦略

1968年(第10回) 思索から連帯へ! 終章。永訣の朝—
B52. 君たちの祖国 70年6月23日 友よ 自己と日本解放の日は近い

1969年(第11回) みずからの手で 新しい大学の創造を
豊かな文化の創造を 京大からの真実の声を そして連帯を 日本の夜明けめざして

1970年(第12回) 歴史の試練に応えんとする我ら 失う
まい 奔流の中で科学者の目を! いつわりの孤高に別れをつけ 人民の連帯の息吹をだきしめよう 君のその精悍の腕でがっしりと

1971年(第13回) 闇を裂き 燃えあがる松明 凝視せよ!
今この時 虚飾にまみれた城郭は浮かびあがった 打ち砕け! 友よ湧きおこる怒りをこめて.....

1972年(第14回) 嵐を突き 燃え広がる変革の炎 歴史に
問んとする我ら 研ぎすませ! 理性の目 生きた思考 創ろう! 新しい大学そして科学

1973年(第15回) 創造の火を! 連帯の輪を! 今こそ君
が手に反戦・自由の歌

1974年(第16回) 今、矛盾の中で叫びが—さて君はどう
する 人間不在の危機的現実 その根源と背景

1975年(第17回) 流れの中 動かざるものを求めて

1976年(第18回) 燃やそう! 新しい文化の炎を 研ぎ澄
まそう! 若き知性を 学術文化の奔流よ築け! 若者の未来を!

1977年(第19回) 明日に生きる我ら 未来を信じて突き
進め 創れ 学生の心を 築け 学生の文化を

1978年(第20回) 振りかえれ人類の歴史を みつめよう
青年の未来を もどすな歴史の歯車 我らの文化は我らの手で

1979年(第21回) 今、新しい時代に立ち向かう仲間たち
よ 数百年を内蔵する思想を持とうではないか

1980年(第22回) 友よ! この変革のとき 時代の胎動に
耳をすまし 共に奏でよう 希望の交響楽を

1981年(第23回) 今、戦争と平和の対峙の時 80年代の
行く手を示す羅針盤を我らの手に

1982年(第24回) 草の根も 花も咲いたら ひざまずき ひ
ろひとつおがんで むせび泣く 人は昔にや戻れないピー
ピーヒャララ ピーヒャララ

1983年(第25回) 万声一京 極祭色 騒がぬ民に 盛りな
し

1984年(第26回) 海を、荒れた海を見つめながら 彼女は
呟いた「わたしは誰?」

1985年(第27回) もうすぐきつと冬になる 騒ぐんだっ
たら 今のうち

1986年(第28回) えっせん あーす げげっせん よんせ
ん はっせん

1987年(第29回) 白い乳房の上の 11月祭

1988年(第30回) 裏からのぞけば 見えてくる

1989年(第31回) 墮落への誘い

1990年(第32回) そして創造—草の根からのルネッサン
ス

1991年(第33回) ヤルハ粋狂、ヤラヌハ卑怯

1992年(第34回) 人が右なら 私は左

1993年(第35回) 花も実もある 根も葉もない

1994年(第36回) 古今東西 有実無題 若氣至りて無限大

1995年(第37回) 我輩は京大生である 理性はもうない

1996年(第38回) 知と痴の融合

1997年(第39回) 狂うは一時の恥、狂わぬは一生の恥

1998年(第40回) 墮落の道も一歩より

1999年(第41回) 素晴らしき無駄なエネルギー

2000年(第42回) 無人島ダンス

2001年(第43回) それはそれ これはこれ

2002年(第44回) 総長! 京都を占拠致しました!

2003年(第45回) やっぱ京大やし。

2004年(第46回) 倒れる時は前のめり

2005年(第47回) せっかくだから

2006年(第48回) 溢れる才能の無駄使い

2007年(第49回) 満喫! モラトリアム。

2008年(第50回) 単位より大切ななにかを求めて

2009年(第51回) 失った常識のかわりに

2010年(第52回) 仕分けできないムダがある

2011年(第53回) 年に一度の計画発電